

小 学 校 外 国 語 活 動

1 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。

2 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) (知識及び技能)

外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。

(2) (思考力、判断力、表現力等)

身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

(3) (学びに向かう力、人間性等)

外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3 新設の要点

(1) 中学年（3，4年生）に年間35時間の「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」を中心とした外国語活動を位置付ける。

(2) 「聞くこと」

- ① ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。
- ② ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
- ③ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。

(3) 「話すこと [やり取り]」

- ① 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。
- ② 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。
- ③ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

(4) 「話すこと [発表]」

- ① 身の回りの物について人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。
- ② 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。
- ③ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

(5) 「知識及び技能」

実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。

- ① 言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。
- ② 日本と外国の言語や文化について理解すること。
 - ・ 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
 - ・ 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付くこと。
 - ・ 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深めること。

(6) 「思考力、判断力、表現力等」

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① 自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら、伝え合うこと。
- ② 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。

4 言語活動及び言語の働きに関する事項

(1) 言語活動に関する事項として主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げる。

① 「聞くこと」

- ・ 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容を分かるような活動。
- ・ 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。
- ・ 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。

② 「話すこと [やり取り]」

- ・ 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。
- ・ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の気持ちや考えなどを伝え合う活動。
- ・ 自分や相手の好み及び欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。

③ 「話すこと [発表]」

- ・ 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。
- ・ 自分の好き嫌いや欲しい物などについて人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。
- ・ 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動

5 指導計画の作成と内容の取扱い

指導計画の作成に当たっては、第5学年及び第6学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面状況などを意識して活動を行い英語の音声や語彙表現などの知識を、三つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。
- (2) 各単元や各時間の指導に当たってはコミュニケーションを行う目的場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること
- (3) 学年ごとの目標を適切に定め、2学年を通じて目標の実現を図るようにすること。
- (4) 英語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を行うこと。
- (5) 道徳教育の目標に基づき、道徳科との関連を考慮しながら適切に指導すること。
- (6) 言語活動の題材は、他教科等と関連付けて指導すること。
- (7) 障害のある児童などについては、指導内容や指導方法工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (8) 指導計画は、学級担任又は外国語を担当する教師が作成し、ALT、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域の人材の協力を得る等、指導体制の充実と指導方法の工夫を行うこと。

6 評価

観点に基づき、数値ではなく、文章で評価すること。

7 移行期間中における留意事項

- (1) 新たに年間15単位時間を加え、外国語活動を実施する。学習内容は、高学年との接続の観点から最低限必要な内容と、それを活用して行う言語活動を中心に扱う。教材は、現在文部科学省が開発している新学習指導要領に対応した教材を配布し、必要な部分を提示する。
- (2) 総合的な学習の時間から15時間振り替えることが可能。
- (3) 評価については、顕著な部分があれば総合所見に書く。
- (4) 全面実施に向けて、外国語担当者を中心に校内研修等を通じて学校全体で指導内容の把握並びに指導法等について検討すること。